大学改革この１年

ー広島大学の改革の歩みー

（令和元年１０月～令和２年９月の取組）

Town & Gown Office

ASU/Thunderbird-Hiroshima University Global Initiative

ASU Arizona State University

THUNDERBIRD SCHOOL OF GLOBAL MANAGEMENT

広島大学

建学の精神（昭和 25 年 11 月）

○　自由で平和な一つの大学

理念５原則（平成 7 年 10 月）

○　平和を希求する精神

○　新たなる知の創造

○　豊かな人間性を培う教育

○　地域社会・国際社会との共存

○　絶えざる自己変革

SPLENDOR　PLAN　2017

（平成 29 年 4 月）

○ミッション（使命と役割）

　新しい平和科学の理念＝「持続可能な発展を導く科学」を確立し，多様性をはぐくむ自由で平和な国際社会の実現

○全体コンセプト

　「持続可能な発展を導く科学」を実践する世界的な教育研究拠点の構築

総合戦略室

令和 2 年 10 月 作成

◎　大学の改革に向けての方向性

～「持続可能な発展を導く科学」を実践する世界的な教育研究拠点となる大学院へ～

2017 年４月に策定，公表した新長期ビジョン「SPLENDOR PLAN 2017」において，新しい平和科学の理念「持続可能な発展を導く科学」の創生を目指した活動を展開し，100 年後にも世界で光り輝く大学としての責務を果たすことを宣言した。

「持続可能な発展を導く科学」を実践する世界的な教育研究拠点を構成するとともに，持続可能で平和な共生社会の実現に貢献する新たな知識や価値の創造，イノベーション創出を担う人材の育成を広島大学大学院のミッションとし，それを実現するために策定した「広島大学の大学院再編についての基本的考え方（平成 29 年５月 16 日教育研究評議会承認）」の方針に従い，大学院改革に取り組んでいる。

☆　**令和２年度の教育研究組織整備**

- **本学にとって初めての国際連携専攻（ジョイント・ディグリー・プログラム）となる「広島大学大学院人間社会科学研究科広島大学・グラーツ大学国際連携サステイナビリティ学専攻」及び「広島大学大学院先進理工系科学研究科広島大学・ライプツィヒ大学国際連携サステイナビリティ学専攻」の設置が，文部科学省により認可され，令和２年 10 月の設置が決定【令和元年 12 月】**
- **広島大学大学院の人文社会科学系・学際系の６研究科 16 専攻（一部を含む）を再編し，「人間社会科学研究科」を新設【令和２年４月】**

  （目的）人間と社会のための諸科学の追求と，教育による持続可能で平和な世界の構築を目指すという２つのミッションを有し，人間や社会に関する深い見識と専門分野以外への強い関心を持ち，自然科学や生命科学を含む他分野の専門家と協働して将来の人類社会を創造する人材を育成する
- **広島大学大学院の理学・工学系の５研究科 17 専攻（一部を含む）を再編し，「先進理工系科学研究科」を新設【令和２年４月】**

  （目的）幅広く深い教養とともに，理学，工学又は情報科学及びこれらに関連する研究領域において，高度な専門性を核としながら，多分野との融合的理解力を身に付け，社会の課題解決に取り組むことのできる人材を育成する

☆　教育研究に関する協定の締結

- 教育・研究活動の包括的な交流と連携・協力の推進によって，我が国の教育・研究の一層の進展に資することを目的に，桜美林大学と，包括的連携協力に関する協定を締結【令和２年１月】

◎　教育に関する取組

○　平和を希求し，チャレンジする国際的教養人の育成

平和を希求するグローバルな視野と幅広く深い教養，豊かな人間性を涵養することを基軸とし，さまざまな教養教育・グローバル教育を展開

☆　各国政府代表者や在京大使による平和をテーマにした講演会「ピース・レクチャー・マラソン」を開催
第５回：駐ペルー共和国日本国特命全権大使　土屋定之氏【令和元年 10 月】

☆　全学部必修科目「大学教育入門」の一環として，スポーツ，芸術，科学，ビジネスなど各界で活躍されているリーダーによる講演「世界に羽ばたく。教養の力」を，新型コロナウイルス感染症の影響により，講演動画を視聴する形式で開講【令和２年６月～７月】

☆　**学生たちが，原爆，紛争，貧困，平和構築などをテーマに「平和とは何か」という問題に向き合い，そこから教訓を得ること，そして核兵器廃絶，非暴力の未来を描いていくことを目的として，「学生ヒロシマ『平和』を考えるサミット」を，被爆 75 年に合わせて初めて開催し，サミットに参加した多国籍の学生らが，８月６日の広島大学平和企画において「2020 年学生ヒロシマ平和宣言」を発表【令和２年８月】**

○　教育成果に係る評価

☆　「企業の人事担当者から見た大学のイメージ調査ランキング」において，「行動力」で全国２位，総合ランキングで同６位（中国・四国・九州エリアではトップ）にランクイン【令和２年６月】

○　その他教育に関する取組

☆　本学の教育の取組や学生生活，留学，就職・キャリア支援などについて，ご理解とご意見をいただくために，学部１年次生及び２年次生の保護者・家族を対象に「広島大学地域懇談会」を，神戸，広島，長崎，松山の４地区で開催【令和元年 10 月～11 月】

☆　学生の起業活動や集会，自習など多目的に使用できる施設として，福山通運株式会社および公益財団法人渋谷育英会の寄贈を受け，ヤマネホールディングス株式会社が施工した「福山通運小丸賑わいパビリオン」をオープン【令和元年 12 月】

寄贈を受けた福山通運小丸賑わいパビリオン

☆　多様な構成員を受け入れ，一人ひとりの意思を尊重し，差別をなくし，構成員が安心して存分に力を発揮できるような大学を目指し，「性の多様性に関する理念と対応ガイドライン―LGBT 等の学生の修学のために―」を策定し，令和２年４月より適用開始【令和元年 12 月】

☆　本学が発行する卒業証明書等の各種証明書について，インターネットによる申請とコンビニエンスストアでの受取を可能とするシステムを導入し，利用者の利便性向上を図るとともに，証明書発行に伴う業務コストに対する受益者負担の観点から徴収する手数料を原資とし，劣化している紙媒体の学籍簿及び成績原簿のデータ化を行うため，証明書コンビニ発行サービスを，令和３年１月から導入することを決定【令和２年３月】

☆　学生の主体的な学びを促進するとともに，学生自身が学修の成果を実感できるよう，意義ある学習経験を生み出す大学環境づくりを支援するため，「教育学習支援センター」を設置【令和２年４月】

☆　附属福山高等学校が，文部科学省「WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業」の「カリキュラム開発拠点校」に選定【令和２年４月】

☆　新型コロナウイルス感染症拡大の影響により，自宅で過ごす人が多くいる中で，広島大学の「知」を通じて「学び」や様々なことに興味をもってもらうきっかけとなることを目的として，本学教員が授業や研究内容等について講義を行う「知を鍛える - 広大名講義 100 選 - 」を YouTube で公開【令和２年８月】

☆　大学に対してスポーツに関する社会的要請の拡大を受け，スポーツに関する教育及び研究を行い，スポーツの振興を通じて，健全な心身と教養，豊かな人間性を備えた人材の育成に資することを目的として，スポーツ科学センターを改組し，10 月１日に「広島大学スポーツセンター」を設置することを決定【令和２年９月】

◎　研究に関する取組

☆　企業の事業戦略に深く関わる大型共同研究への集中的なマネジメントを通して，大型共同研究の推進を図るとともに，本学における財政基盤の強化，大学改革の推進及び研究力の強化等に資することを目的として，「オープンイノベーション事業本部」を設置【令和元年 10 月】

☆　我が国の研究生産性の向上を図るため，国内の研究者育成の優良事例に海外の先進事例の知見を取り入れ，世界トップクラスの研究者育成に向けたプログラムを開発する「地方協奏による世界トップクラスの研究者育成（HIRAKU-Global）」が，文部科学省「世界で活躍できる研究者戦略育成事業」に採択【令和元年 11 月】

☆　SDGs の観点から，本学の特色ある教育，研究，社会貢献，大学運営に関して取組・実績を報告する，本学最初の SDGs 報告書「NERPS Report 2018-2019」を発行【令和２年１月】

☆　「こころの病」への発生メカニズムを新しいアプローチにより解明を目指す研究拠点として「国際アフェクトーム（感情）研究センター」を設置【令和２年４月】

☆　**新型コロナウイルスに対する研究について，国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）が公募した「ウイルス等感染症対策技術開発事業」において，全国で唯一，４分野（実証，改良，有効性確認，基礎研究）全てで採択【令和２年６月，８月】**

☆　新型コロナウイルス感染拡大防止のための検査体制の拡充，感染状況のタイムリーな把握による疫学調査体制の整備，ゲノム解析による感染実態の把握を実施するため，広島県からの受託事業「官学連携による COVID-19 の検査研究体制構築事業」を受託【令和２年６月】

☆　**AI･データサイエンス教育の開発と普及，企業との連携による研究力の強化を推進するための拠点として，10 月１日に「広島大学 AI・データイノベーション教育研究センター」を設置することを決定【令和２年９月】**

☆　世界トップクラスの研究大学として，国際展開力・発信力をさらに強化していくため，新たに自立型研究拠点１件，インキュベーション研究拠点３件を認定

＜自立型研究拠点＞

・プレート収束域の物質科学研究拠点（教育プログラムと連携し大学院生が参画する，超学際的な国際異分野融合研究教育拠点「最先端国際プロジェクト」としても認定）【令和２年６月】

＜インキュベーション研究拠点＞

・ポリオキソメタレート科学国際研究拠点【令和２年６月】
・オルガネラ疾患研究拠点【令和２年６月】
・都市－農村流域圏の健全循環創成（SATO NET 創成）【令和２年６月】

☆　産学協働の研究拠点を大学内に長期的に確保し，研究活動の更なる充実と産業界への一層の貢献を目指し，新たに６つの「共同研究講座」を設置

・次世代ゲノム細胞創薬共同研究講座：Repertoire Genesis 株式会社【令和元年 10 月】
・JSW メカトロニクス共同研究講座：株式会社日本製鋼所【令和元年 10 月】
・石炭灰利用・環境保全技術共同研究講座：中国電力株式会社エネルギア総合研究所【令和元年 10 月】
・インテグリン-マトリックス治療開発医科学共同研究講座：武田薬品工業株式会社【令和２年６月】
・臨床創薬学共同研究講座：曽根ファーム株式会社【令和２年６月】　　ほか１講座

◎　社会貢献に関する取組

☆　**国連の SDGs の枠組みを用いて大学の社会貢献の取組を可視化する「Times Higher Education 大学インパクトランキング 2020」において，SDGs17 項目のうち５項目（SDG ３（すべての人に健康と福祉を），６（安全な水とトイレを世界中に），９（産業と技術革新の基盤をつくろう），11（住み続けられるまちづくりを），12（つくる責任つかう責任））で世界トップ 100 入りし，３項目（SDG４（質の高い教育をみんなに），６，11）で国内１位，総合スコアでも国内４位にランクイン【令和２年４月】**

☆　**米国の大学立地都市を参考に，東広島市と本学が協働し，市の所有する行政データと大学の知見を基に，官学一体となって持続可能で魅力的なまちづくりに取り組む「Town & Gown 構想」の実現に向け，「Town & Gown Office 準備室」を設置【令和２年４月】**

☆　大学発ベンチャーの創出への取組と投資の積極的な推進を図ることを目的として，株式会社広島ベンチャーキャピタルと，「広島大学・広島県内大学発ベンチャー支援投資事業有限責任組合設立・認定に関する協定」を締結【令和２年４月】

☆　組織的かつ中長期的な産学官連携の強化を推進し，地域社会ならびに国際社会の平和と発展に貢献するため，企業等と包括的協力協定を締結（１件）

・中国電力株式会社（目的：エネルギーや環境に関する分野などにおける最先端の技術開発を行うこと）【令和元年 12 月】

◎　国際戦略に関する取組

○　世界とつながる国際的ネットワークの構築

研究者や研究成果などの学術交流や学生交流など多様な国の大学間での様々な交流を深めるとともに，国際共同研究のハブ構築を目的とし，世界各国・地域の大学・機関との国際的ネットワークの構築を推進

ASU 広大校設置を文科相に報告

☆　**アメリカのアリゾナ州立大学（ASU）と新たな覚書を締結し，国立大学では初となる外国大学の海外キャンパス「ASU／サンダーバードグローバル経営大学院―広島大学グローバル校（グローバル・イニシアティブ）」を広島大学内に設置することを決定【令和２年６月】**

☆　新たな大学間国際交流協定の締結（19 機関 19 協定）

・パルマ大学【令和元年 10 月】
・ソノマ州立大学【令和元年 11 月】
・トリノ工科大学タシケント校【令和２年２月】
・グラーツ大学【令和２年５月】
・ライプツィヒ大学【令和２年８月】
ほか 14 機関 14 協定（令和２年９月末までに全 377 協定を締結）

○　その他国際戦略に関する取組

東広島市と「国際的研究拠点東広島」形成の協定締結

☆　**イノベーションの創出や国際化の推進，交通アクセスの向上，海外からの研究者や留学生等の生活環境の向上などについて，連携して取り組んでいくこととする「国際的研究拠点東広島の形成に関する協定」を東広島市と締結【令和元年 10 月】**

☆　**日本とインドネシアの大学間交流の更なる深化を目的として，「第５回日本・インドネシア学長会議」を，広島大学が幹事校となり開催【令和元年 10 月】**

☆　留学生受入れプログラム「広島大学森戸国際高等教育学院 3+1 プログラム」にて，第４期生 159 人（第３期生 146 人）を受入れ【令和元年 10 月】

☆　**本学が築いてきた国際協力・国際開発に関する教育研究の資産とブランドを継承しつつ，国際化を牽引していくことを目的として，「IDEC 機構」を設置【令和２年４月】**

☆　授業を履修せず，インターンシップ等を目的とした短期在籍を希望する外交人留学生のための新たな学生身分「短期国際交流学生」を新設【令和２年７月】

国際交流拠点施設外観予想図

☆　**国際的研究拠点東広島の形成に向けて，イノベーション創出，国内外の多様な人々の交流と知識の循環，海外のトップ研究者や優れた留学生に対する安全で快適な居住空間の提供など複合的な機能を持つ「国際交流拠点施設」の設計が完了し，本学独自資金 10 億円と東広島市の支援５億円により，令和２年 10 月からの着工開始を決定【令和２年８月】**

☆　**新型コロナウイルス感染拡大状況を踏まえ，海外派遣を伴わないオンラインでの国際交流教育プログラム「e-START/START＋プログラム」を新設【令和２年８月】**

☆　本学におけるグローバル化への対応を全学的な視点から推進するため，「国際交流推進機構」を改編し，10 月１日に「グローバル化機構」を設置することを決定【令和２年９月】

◎　病院に関する取組

☆　本学と株式会社NTTドコモが，次世代通信方式５Ｇを広島大学病院内のスマート治療室に適用した遠隔医療支援フィールド実験を行い，国内で初めて，遠隔地からの手術支援に成功【令和元年11月】

☆　令和元年９月に厚生労働省により指定された「がんゲノム医療拠点病院」として，広島県内のがんゲノム医療連携病院と連携しながら，がんに対する最先端の診療を提供していく体制を整備し，「遺伝子診療科」を設置【令和２年１月】

☆　患者に対して早い段階から緩和ケアを行う必要性とニーズに対応するため，「緩和ケアセンター」を設置【令和２年４月】

☆　外国人受診者を受け入れるための院内外との連携体制の構築及び院内環境の整備や安心して受診できる医療提供体制，病院スタッフのサポート体制の充実を図るため，「国際医療支援部」を設置【令和２年５月】

◎　管理運営に関する取組

☆　基礎研究から産学連携，技術移転まで一貫したシームレスな研究マネジメント体制を構築するため，学術室，社会産学連携室を統合，並びに産学・地域連携センターの機能を集約して，「学術・社会連携室」を設置【令和元年 10 月】

☆　東広島キャンパスにおける学生や教職員の安全な通行を確保するため，自転車走行レーンや歩行者専用ゾーンの整備などの安全対策を実施【令和元年 10 月】

☆　寄附金獲得による教育・研究・社会貢献活動の活性化を目的として，READYFOR 株式会社との業務提携による「広島大学クラウドファンディング」を開始【令和元年 11 月】

☆　在学生，教職員，同窓生，市民の方々と交流する事業「第 13 回ホームカミングデー」を開催【令和元年 11 月】

☆　受動喫煙防止対策の徹底及び禁煙教育の推進等の観点から，キャンパス内全面禁煙をスタート【令和２年１月】

☆　学生，役員，職員，同窓生，その他本学関係者の連帯感と愛校心を涵養するとともに，本学の魅力・情報発信力の向上につなげるため，「広島大学フェニックスマーク」及びマスコットキャラクター「ひろティー」が誕生【令和２年２月】

☆　賀茂泉酒造株式会社（東広島市）とタイアップした日本酒「広大（ひろだい）」の販売を開始【令和２年２月】

フェニックスマーク

ひろティー

☆　令和元年 11 月５日に創立 70 周年を迎えたことを記念して，前身校からの伝統を受け継ぎ，世界のトップ 100 を目指す本学の歴史と現状を簡潔にまとめた「創立 70 周年記念写真集 広島大学の 70 年」を発行【令和２年２月】

☆　公共交通の利便性を高めるため，学内にバス交通結節点を整備するための覚書を東広島市と締結【令和２年３月】

☆　本学所有施設等の有効活用による自己収入の拡大と，教育研究環境の向上を図ることを目的として，ネーミングライツ制度を導入【令和２年４月】

◎　新型コロナウイルス感染症に関する取組

☆　新型コロナウイルス感染症に対する情報収集や構成員に向けた情報提供に努め，感染予防等の対策を検討するため，財務・総務担当理事を座長とする「新型コロナウイルス感染症対策会議」を設置【令和２年２月】

☆　感染症の拡大に伴い，「新型コロナウイルス感染症対策会議」を，越智学長を本部長とする「広島大学危機管理対策本部」に移行（毎週１回開催）【令和２年４月】

☆　海外にいて渡日できない外国人留学生に向けて，必要な情報を，公式 Web サイト上に日本語・英語・中国語で掲載（随時情報更新）【令和２年４月】

☆　学生や教職員が，状況に応じて，適切かつ柔軟に活動する目安を示すため，「新型コロナウイルス感染拡大防止のための行動指針」を策定【令和２年４月】

☆　新型コロナウイルス感染症の影響でアルバイトがなくなるなど，収入が激減して，生活に困窮し，日々の食べ物にも困り，支援を必要としている学生・留学生に対して，１ヶ月３万円（複数回受給可）を支援する本学独自の応急学生支援金制度を全国に先駆けて設立し，同時に支援金の寄附募集を開始（寄附申込額総額 66,211 千円）【令和２年４月】

☆　応急学生支援金制度により，給付を開始（給付件数 854 件（令和２年９月 25 日現在・継続支援中））【令和２年４月】

☆　オンライン学習支援システム（Bb9）や ICT 機器を利用して，遠隔授業，オンデマンド授業などを積極的に活用し，４月８日（学部１年次生対象科目は４月 15 日）からオンライン授業を開始【令和２年４月】

☆　自宅等に Wi-Fi 環境のない学生のために，Wi-Fi ルーターの無償貸出しを開始【令和２年５月】

☆　With/After コロナを踏まえた新しい生活様式に根差し，新しい常識（New Normal）の中で学業・学生生活に勤しめる環境づくりを行っていくため，クラウドファンディング「負けんけんね！広大『広島大学学生応援プロジェクト』」を開始（寄附総額 3,110 千円）【令和２年６月】

☆　入国拒否の指定前に再入国の許可を取って出国した在留外国人について，８月５日から条件付きで再入国が可能となったことを受け，留学生に対して，入国後 14 日間のホテル滞在費等に対して経済支援を行うことを決定【令和２年８月】

☆　感染拡大防止のため，オープンキャンパスをすべてオンラインにより開催【令和２年８月】

☆　感染者の状況や濃厚接触者等の情報を一元管理し，対応を遅滞なくスムーズに行うことを目的として，クラスターが発生し次第直ちに，危機管理対策本部の下に「クラスター対策室」を設置することを決定【令和２年８月】

☆　第３ターム（10 月２日～）からの授業について，十分な感染拡大防止策がとれる範囲内で，１年次生対象の学部専門科目等を，可能な限り対面により実施する方針を決定（第３ターム対面授業割合：約 60%）【令和２年８月】